

住友化学株式会社における 化学物質管理と リスクコミュニケーションへの 取り組み

住友化学(株) レスポンシブルケア室
奈良 恒雄

Sumitomo Chemical Company Limited's Efforts towards Chemical Management and Risk Com- munication

Sumitomo Chemical Co., Ltd.
Responsible Care Office
Tsuneo NARA

The greatest feature of Sumitomo Chemical's chemical management system is comprehensiveness based on our broad knowledge and technical ability as a chemical manufacturer. Furthermore, in order to practice risk communication, we are proactively holding dialogue with, and releasing information to, our diverse range of stakeholders, keeping in mind our motto "It is a mission for enterprises to grow together with the local community". In February 2007 such efforts were finally acknowledged, when Sumitomo Chemical received the 2006 PRTR Grand Prize, the first time for a chemical company. Our company's approach to chemical management and risk communication will be outlined in this document.

はじめに

住友化学(株)は、製品の全ライフサイクルにわたって「環境・安全・健康・品質」を確保し、社会からの信頼と理解を深めていく事業者による自主的活動であるレスポンシブル・ケア(RC)を、当社CSR経営の最も重要な柱のひとつとして位置づけ、国内の全ての工場、研究所はもとより、国内外のグループ会社を含めてグローバルに展開している。

とりわけ化学物質管理については、リスク管理とリスクコミュニケーションの推進を、当社RC活動方針の中心に据えて、その実現に向けた具体的な取り組みを計画的かつ効果的に進めている。一方で、こうした「RC活動」に加えて「社会的活動」「経済性の追求」にも十分な配慮をしつつ、当社が目指すサステナブルケミストリーの実践から生まれた新しい有用な技術や製品によって、企業価値を向上させ、人々の豊かなくらしづくりや、私たちの社会や地球環境が抱える問題の解決に貢献することを通じて、より一層CSR経営を推進し、持続可能な社会の構築にも寄与していきたいと考えている。

本稿は、「化学経済 2007年6月号 P.53～60 (発行:(株)化学工業日報社)」に掲載されたものに加筆したものです。

化学物質の適正管理の継続的向上

1. 化学物質のリスクマネジメント

化学製品の研究開発から、製造、流通、消費、廃棄にいたるまでの全ライフサイクルにわたり、定められた方法・手順で各種化学物質のデータ・情報を入力し、必要なリスク管理を徹底している (Fig. 1)。

2. コーポレート研究所によるRC活動の補完

RC活動の領域は「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品安全」「品質保証」など極めて多岐にわたっている。こうした広い分野での化学物質管理に確実に対処するためには、科学技術に裏づけされた高い技術力、専門性が必要とされる。このため当社では危険性・有害性の両面から化学物質および化学プロセス等の安全性試験・評価を行う「生物環境科学研究所」「生産技術センター」の2つの全社共通研究所を設置している。これらの研究所では、当社全ての製品、プロセス、設備について高度な専門的見地からRC活動をバックアップし、環境の保全や安全性の確保を支援している (Fig. 1)。

3. 全社化学品安全データベースシステムの構築

1992年、製品(自社販売品、リセール品)、購入原

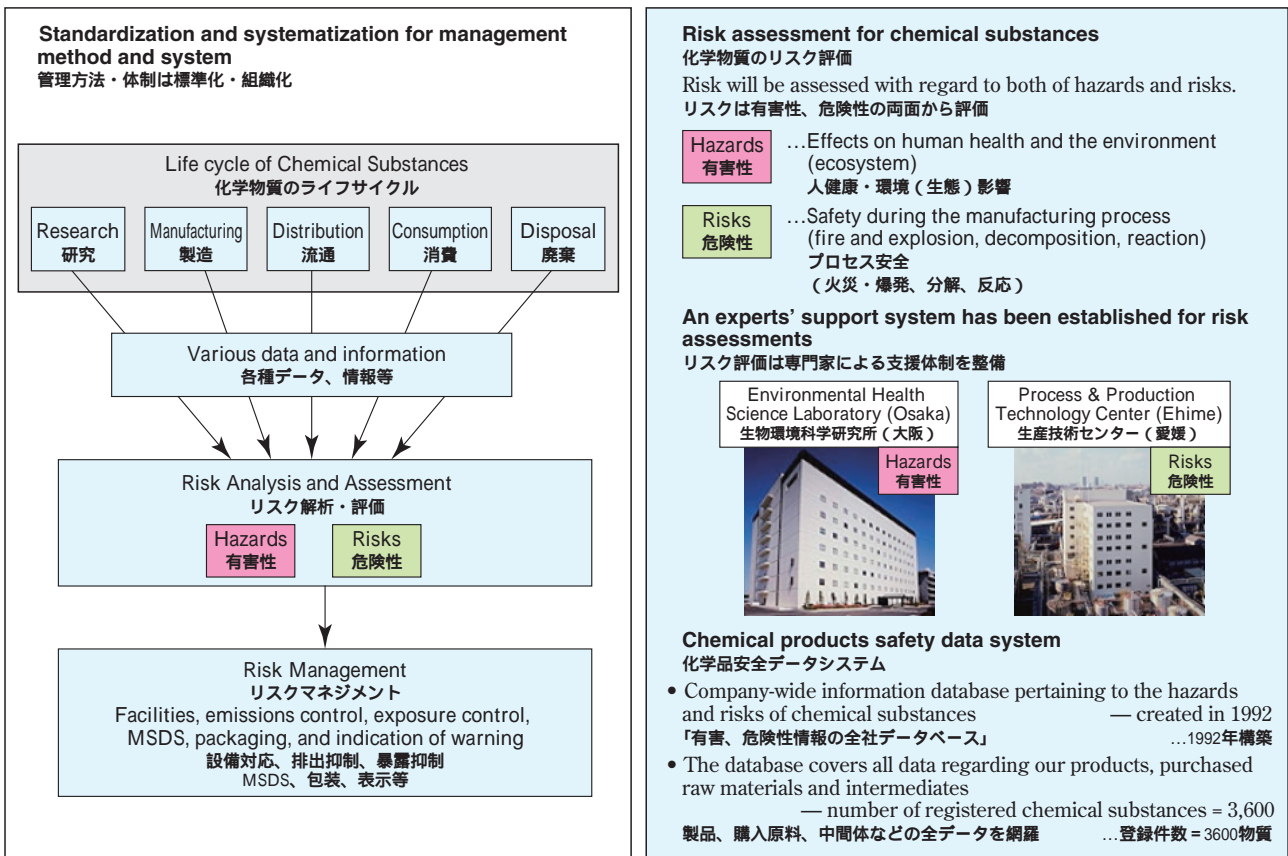


Fig. 1 Risk Management for Chemical Substances
化学物質のリスクマネジメント



Fig. 2 Flow of Chemical Substance Management and Product Development
化学物質管理と製品開発の流れ

料、中間体などの危険・有害性情報の基本データベースとして、全社的なオンラインシステムである「化学品安全データベースシステム」を構築し、運用を開始した。現在、本システムには約3600物質のデータが登録され、社内における迅速かつ正確な情報提供に大きく貢献するとともに、製品安全データシート（MSDS）作成のための基礎資料あるいは社内教育資料などにも有効に活用されている（Fig. 1）

4. 事前審査システム（開発工業化の各ステージでの化学物質管理）

化学物質管理の具体的な対応の仕組みとして、事前審査システムを構築している（Fig. 2）。本システムの適用範囲は、新製品の研究開発および工業化ならびに既存品の製法改良・合理化（以下「開発工業化」という）であり、社内規則で定められた総括責任者、工業化責任者、プロジェクトマネージャーが開発工業化の一切の責任を担っている。当社は製品開発の基礎研究から本格的な製造が実施されるまでの各ステージで、物質の特性や危険・有害性の評価、法規制・基

準への対応検討、その他さまざまな視点での調査・評価を実施して、化学物質管理の徹底に努めている。

なお、作業安全・環境影響に係わる「火災爆発等の危険性」および人への健康影響や生態影響等を評価する「有害性」の各リスクアセスメントの詳細な実施方法・手順については全て標準化・文書化され、社内規則として運用している。リスクアセスメントを踏まえてのリスクマネジメントの方法・手順についても同様の処置がなされている。

5. 新規化学物質の二段階評価

新規化学物質の人、健康ならびに生態、環境影響のリスクアセスメントは、最初に定性的な評価を行い、その後、一定以上の影響が確認された物質について、さらに詳細な定量的評価を実施する二段階評価の仕組みを採用している。具体的には初めに毒性の有無を評価し、毒性のあるものについては、社内の判断基準と比較し、詳細評価が必要とされたものについて、毒性の強さと暴露される量を評価し、最終的にリスクの程度を評価している（Fig. 3）

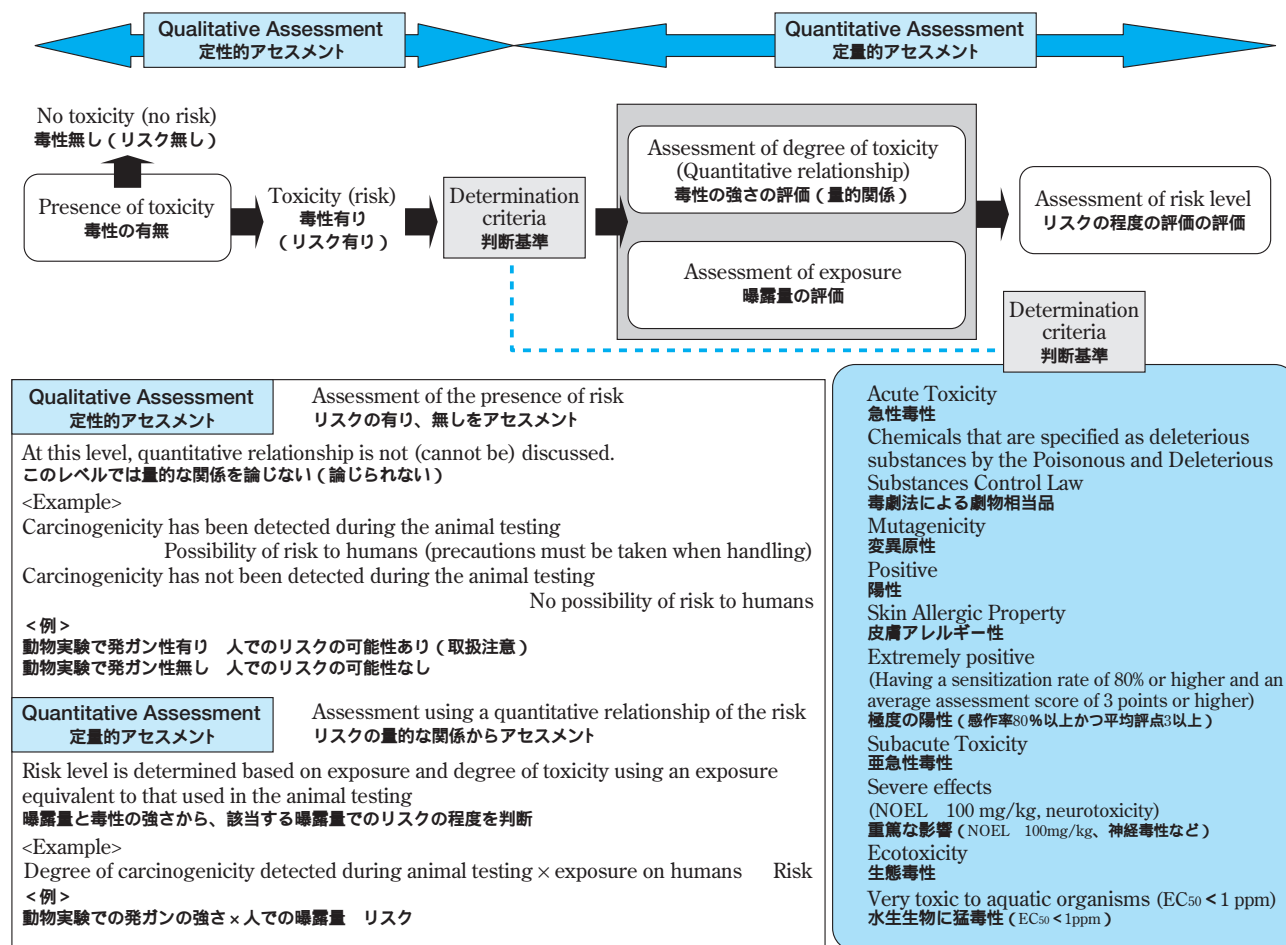


Fig. 3 Management of New Chemical Substances (Two-Step Assessment)
新規化学物質管理（二段階評価）

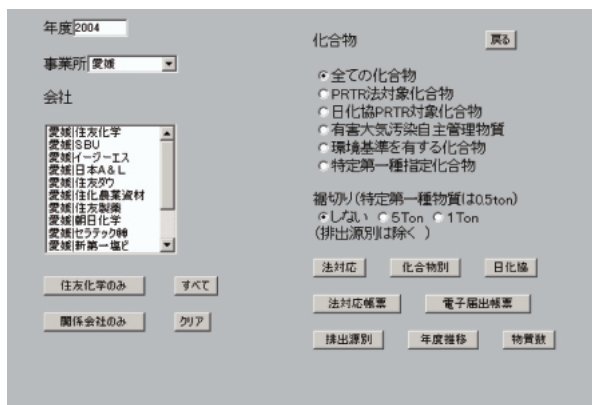


Fig. 4 Example Display of Company-Wide PRTR Calculation System
全社PRTR集計システムの画面表示例

1. Risk management based on environmental risks
環境リスクに基づくリスク管理
2. Emissions management based on the emission amount ranking assessment
排出量ランキング評価に基づく排出量管理
3. Emissions management conducted in collaboration with the industry and local community
業界・地域と連携した排出量管理
4. Emissions management using the integrated environmental load method
環境負荷統合手法を活用する排出量管理

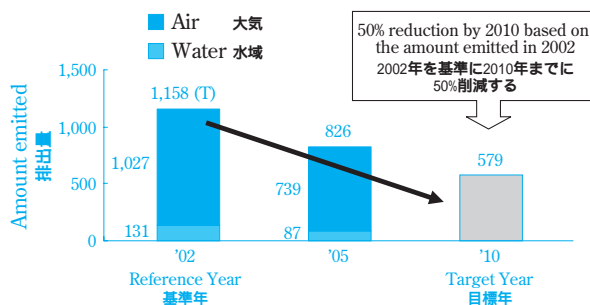


Fig. 5 PRTR Strategy and Target Values
PRTR戦略と目標値

Table 1 Details of the PRTR Strategy
PRTR戦略の詳細

The company-wide policy to thoroughly undertake the emission reduction measures by specifying chemical substances for which the amount emitted should be reduced with consideration for both the amount emitted and environmental risks

環境リスクと排出量の両面から、優先的に削減対象物質を定めて、重点的に対策を実施するための全社方針

Item 項目	Purpose 目的	Details 内容	Results 実績
Risk management based on environmental risks 環境リスクに基づくリスク管理	To avoid risks to human health and the ecosystem 人健康・生態影響のリスク回避	<ul style="list-style-type: none"> Our own target concentrations for all chemical substances handled will be set. 取扱全物質の環境目標濃度を独自に設定 The amount to be reduced by will be estimated using simulation data. Results will be confirmed by measurements. 削減量はシミュレーションのデータで予測し、結果は実測で確認 	Completion of risk assessments of all chemical substances 全物質のリスク評価完了 ↓ The results will be reflected in the emission reduction plan. 削減計画に反映
Emissions management based on the emission amount ranking assessment 排出量ランキング評価に基づく排出量管理	To ease the anxiety of residents in areas near factories by improving the emission amount ranking assessment 排出量ランキングの評価を改善し、工場周辺の地域住民の方々の不安感の低減	<ul style="list-style-type: none"> Our own determination criteria have been devised in order to assess the emission amount ranking of each chemical substance classified into two categories: nationwide and by prefecture. 物質ごとの全国・各県別の排出量ランキングを評価するために独自の判断基準を策定 	Implementing the ranking assessment of all chemical substances (annual) 全物質のランキング評価実施（毎年） ↓ The results will be reflected in the emission reduction plan. 削減計画に反映
Emissions management conducted in collaboration with the industry and local community 業界・地域と連携した排出量管理	To contribute to achieving environmental quality standards values (environmental indicators) by accomplishing the “Reduction Targets for Self-Managed Hazardous Air Pollutants” and the “Reduction Targets for Benzene Emissions” 「有害大気汚染物質削減目標」「ベンゼン排出削減目標」を達成し、環境基準値（環境指針値）の達成に寄与	<ul style="list-style-type: none"> Hazardous air pollutants (total of 9 chemical substances) Our voluntary reduction plan will be devised. (In collaboration with the Japan Chemical Industry Association) 有害大気汚染物質（全9物質）自主削減計画策定（日本化学工業協会と連携） Our voluntary benzene reduction plan will be devised. (In collaboration with 12 iron, chemicals and petroleum businesses in the Tokyo and Chiba coastal central region) ベンゼン自主削減計画策定（京葉臨海中部地区の鉄・化学・石油の全12事業所と連携） 	Accomplishing our voluntary reduction plans (achieving the targets) 自主計画完遂（目標達成） ↓ The results will be reflected in the emission reduction plan. 削減計画に反映
Emissions management using integrated environmental load method 環境負荷統合手法を活用する排出量管理	To promote a comprehensive environmental load reduction plan by devising a cost effective action plan through the selection of high priority chemical substances having high environmental loads 優先度の高い環境負荷物質をピックアップし、費用対効果に優れた行動計画を策定し、総合的な環境負荷削減を推進	<ul style="list-style-type: none"> Integration of various environmental loads will be examined. 各種環境負荷の統合化を検討 Factory-by-factory relationship between “production efficiency” and “environmental efficiency” or “cost efficiency of reducing environmental loads” 工場単位での「生産効率」と「環境効率」あるいは「環境負荷削減の費用対効果の効率」との関係性を評価 	Continuing the assessment 評価継続 ↓ Now examining the quantification of the “Targets for improving the environment efficiency” (The result will be reflected in the emission reduction plan.) 「環境効率の改善目標」の数値化を検討中（削減計画へ反映予定）

PRTR対応

1. 全社PRTR集計システム

2002年、入力データの正確さの向上および集計の効率化・迅速化を目的に本社と各事業所をネットワークした全社PRTR集計システムを開発し、運用を開始した。本システムには排出量・移動量算出のために必要な物質収支等のデータが排出源別に網羅的に収録され、データの解析・検討などにも幅広く利用されている。システムの画面表示例をFig. 4に示す。

2. PRTR戦略と削減目標

同年、PRTR法対象物質の適正管理の強化に向けて、「住友化学のPRTR戦略」を策定し、以来今日まで本戦略に基づき、中長期にわたるこれら物質の環境への計画的な排出削減を実現してきた。

戦略は4つの検討項目から構成され、その中心をなすものが環境リスクに基づくリスク管理である。そしてそれを補完するものとして、排出量管理の仕組みを取り入れている。排出量管理は排出量ランキング評価、業界・地域との連携、さらには環境負荷統合手法の活用を評価項目としている。そしてこれらの評価結果をもとに、「PRTR法対象物質の総排出量（大気・水域）を2010年度までに2002年度比で50%削減」という具体的な数値目標を定めている（Fig. 5）。目標達成の推進力は、PRTR戦略そのものといえる。

3. PRTR戦略の詳細（Table 1）

環境リスクに基づくリスク管理は、排出量の多少にかかわらず取り扱いのある全物質について自主的な環境目標濃度（大気、水域の排出の別）を定め、モニタリングやシミュレーションのデータと比較することで、有害性を評価し、その結果を削減計画に反映させている。なお必要なリスク評価の作業は全て終了している。排出量ランキング評価では毎年度、全ての工場で排出ワーストのランキングを評価し、社内判断基準にしたがってその結果を同様に削減計画に反映させている。

また業界・地域と連携した排出量管理は、有害大気汚染自主管理物質などについて、自主的な排出削減目標を定め、大幅な削減を実現した。更に新しい概念である環境負荷統合手法を活用する排出量管理では、現在様々な検討・評価作業を継続中で、今後さらに検討内容を掘り下げることで削減量を数値化し、削減計画への反映を予定している。

(1) 環境リスクに基づくリスク管理

製造、使用している全物質について、大気・水域の排出の別に自主管理基準として、環境目標濃度を設定している。大気については、工場敷地境界の大気濃度、水域については排水口最終出口の排水濃度を管理ポイントとして、そこでの環境目標濃度の達成を目指している（Fig. 6）。

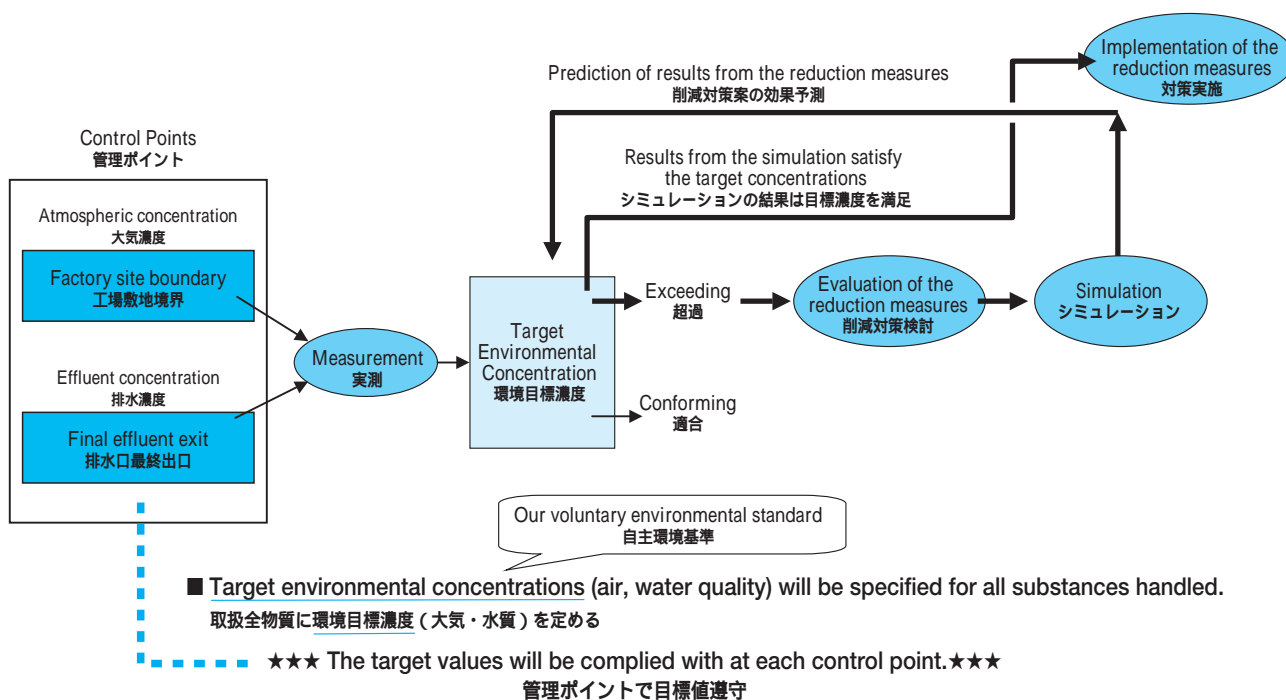


Fig. 6 Risk Management Based on Environmental Risks
環境リスクに基づくリスク管理

Table 2 Setting Target Environmental Concentrations
環境目標濃度の設定

1. Air 大気	… Target concentrations will be specified by evaluating reliable toxicity data pertaining mainly to the effects against human health. 人への健康影響を中心に信頼できる毒性データの評価を行い、目標濃度を設定
Calculation Method 算出方法	<ul style="list-style-type: none"> • Japanese standards exist → The Japanese reference values will be adopted. 日本の基準がある → 日本の基準値を採用 • No Japanese standards exist → Of the reference values stipulated by the World Health Organization (WHO) and US safety standards, the stricter value will be adopted 日本の基準がない → 世界保健機関 (WHO)、米国の基準のうち、より厳しい基準値を採用 • No standards exist in Japan, the US or the WHO → Paying attention to labor reference values in both Japan and the US, target values will be calculated by multiplying the safety factor by the stricter reference value of that stipulated by the US and that stipulated by the Japanese standards 日本・WHO・米国のいずれにも基準がない → 日本、米国の労働基準値に着目し、より厳しい基準値に安全係数を乗じて算出
2. Water Quality 水質	… Target concentrations will be specified by evaluating reliable toxicity data for aquatic organisms. 水生生物に対する信頼できる毒性データの評価を行い、目標濃度を設定
Calculation Method 算出方法	<ul style="list-style-type: none"> • Of the reference values stipulated by the Japanese standards and that stipulated by the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD), the stricter value will be adopted. 日本あるいは経済協力開発機構 (OECD) の基準値のうち、より厳しい基準値を採用

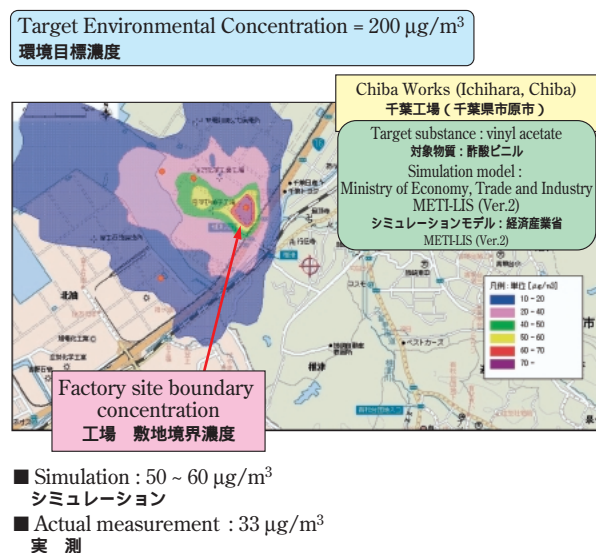


Fig. 7 Example of Air Simulation
大気シミュレーション実施例

環境目標濃度は、日本ならびに海外の信頼できる国や機関の基準値をもとに決めている。具体的には大気では人の健康影響を中心に毒性評価をもとに、水域では水生生物に対する予想無影響濃度をもとに設定している。なお環境目標濃度の設定は、当社のリスク評価の専門家が責任を持って検討・対処している (Table 2)。

シミュレーションについては様々なコンピュータソフトを活用して、排出削減による環境改善効果の予測などに役立てている。一例として、工場を排出源とする酢酸ビニルの大気拡散濃度分布のシミュレーションの実施事例を Fig. 7 に示した。工場敷地境界

の管理ポイントでの大気濃度は、環境目標濃度以下に抑制されている。

(2) 排出量ランキング評価に基づく排出量管理

全社共通の「排出量ランキング評価 (国、県単位) の判断基準」を策定している。判断基準は Table 3 に示す 4 つの考え方 (A ~ D) からなり、基準の適用には優先順位付けを行い、順位のより高いものを優先して処置している。

(3) 業界・地域と連携した排出量管理

当社は日本化学工業協会の削減方針を踏まえ、有害大気汚染自主管理物質 (全 9 物質) について、意欲的な削減目標を策定し、大幅な削減を実現した。同様に国の通達、指針を受け、京葉臨海中部地区の鉄、化学、石油といった異業種 (全 12 社) が連携して取り組んだベンゼンの排出削減についても、当社は独自にベンゼンの排出量のミニマム化という目標を立て、それを達成した (Fig. 8)。

(4) 環境負荷統合手法を活用する排出量管理 (Fig. 9)

2004 年度から JEPIX (環境政策優先度指数日本版) 手法に基づく環境負荷の統合化を試行し、「環境効率」を算出し、「生産効率」や「環境負荷削減の費用対効果」他との関係について詳細な検討を継続している。本手法を今後有効に活用することにより、PRTR 対象物質のみならず、様々な環境負荷物質の排出削減をより効果的かつ効率的に推進することが期待できる。

4. 排出削減の取り組み事例 (Fig. 10)

大気、水域への排出削減は、設備の密閉化や運転

Table 3 Emissions Management Based on Emission Amount Ranking Assessment
 排出量ランキング評価に基づく排出量管理

- Measures will be undertaken based on the determination criteria for emission reductions
 排出量削減の判断基準に基づき対応
 Order of Priority : A > B > C > D
 優先順位

Determination Criteria 判断基準

- A. The substance has been ranked as one of the worst 10 by the all-Japan emission ranking assessment
 全国排出ランキング評価でワースト上位10位以内
- The amount emitted and the number of companies handling the substance shall not be taken into account.
 取扱事業者数、排出量は勘案しない
- B. The amount emitted is over 100 tons and the substance has been ranked as one of the worst 10 by the prefectural emission ranking assessment
 排出量100T以上で全県排出ランキング10位以内
- The number of companies handling the substance shall not be taken into account.
 取扱事業者数は勘案しない
- C. The amount emitted is more than 1 ton and less than 100 tons, and the substance has been ranked as one of the worst 10 by the prefectural emission ranking assessment.
 排出量1T以上100T未満で全県排出ランキング10位以内
- However, the number of companies handling the substance must be at least 2.
 但し、2社以上の事業所で取り扱いがあること
- D. The amount emitted is less than 1 ton, and the substance has been ranked as the worst by the prefectural emission ranking assessment.
 排出量1T未満で全県排出ランキング1位
- However, the number of companies handling the substance must be at least 10.
 但し、10社以上の事業所で取り扱いがあること

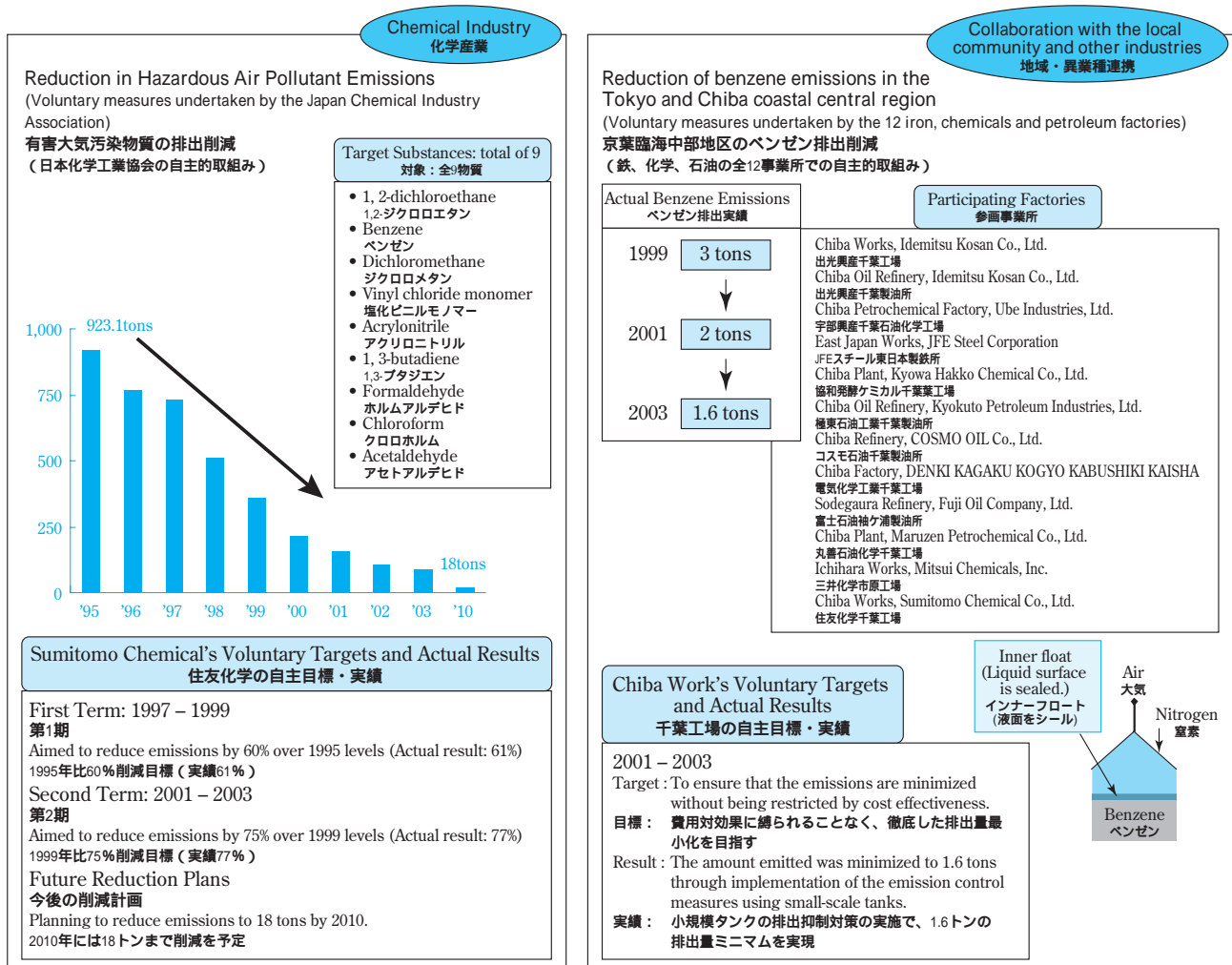


Fig. 8 Emissions Management Conducted in Collaboration with the Industry and Local Community
 業界・地域と連携した排出量管理

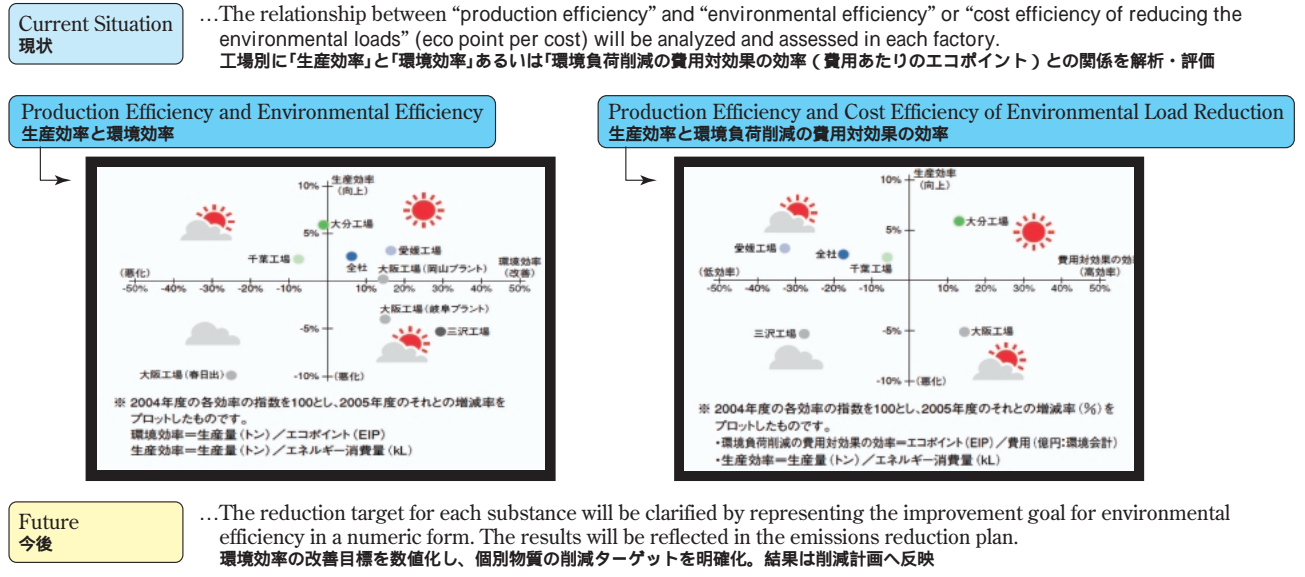
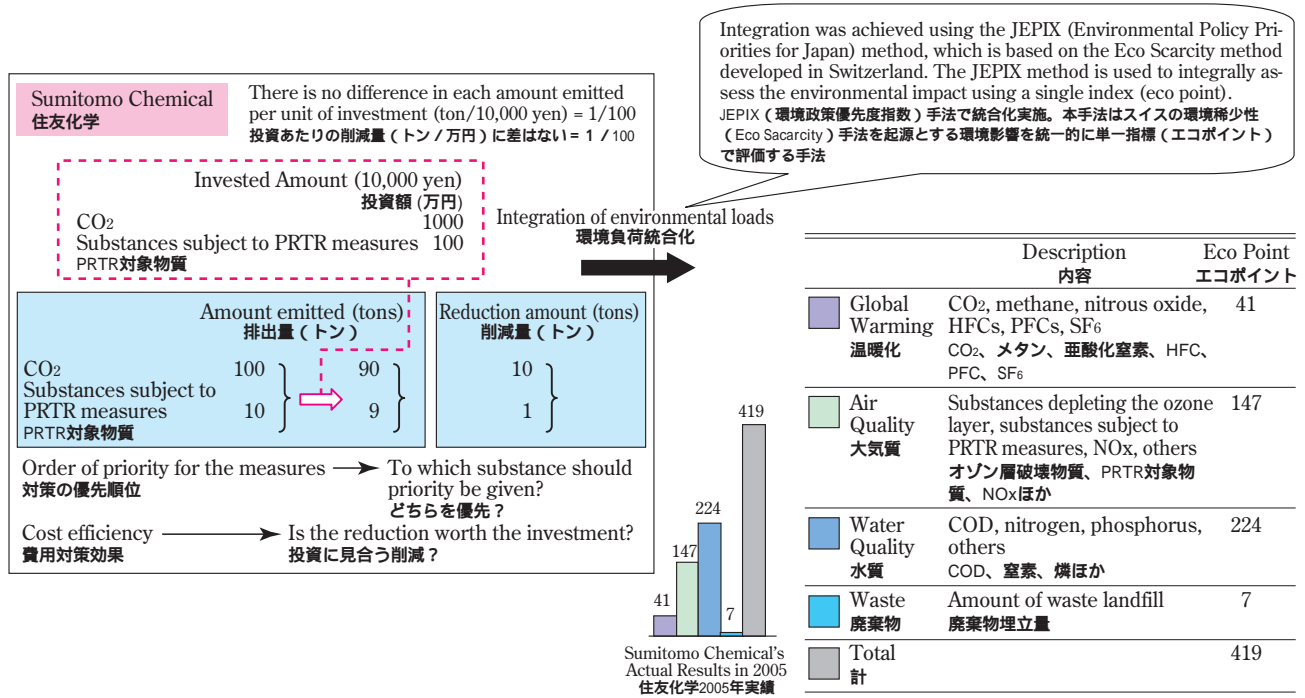


Fig. 9 Emissions Management Using the Integrated Environmental Load Method
環境負荷統合手法を活用する排出量管理

方法の改善といった排出口の削減の取り組みを基本に、吸着剤や洗浄剤の使用およびガス冷却強化などによる回収強化、貯蔵タンクのインナーフロート化による排出抑制、さらには燃焼・活性汚泥処理等による分解処理など、費用対効果に優れた諸策を積極的に講じている。

サステイナブルケミストリーの実践

当社は化学メーカーとしての強み・特質を生かし、高機能性の触媒開発や生産に関わる基盤技術の開発、

すなわちプロセスイノベーションを通じて、社会にとって有用なものを、より少ない環境負荷のもとに、経済的にもより効率的 (省エネルギー、省資源) な形で提供し続けるサステイナブルケミストリー (グリーンプロセスの開発およびクリーンプロダクトの生産) の実践に努めている。グリーンプロセスの開発事例を Fig. 11 に示した。

本取り組みは、化学物質の適正管理の推進に大きく寄与するとともに、持続可能な社会の構築に向けた大きな推進力として貢献することが期待できる。

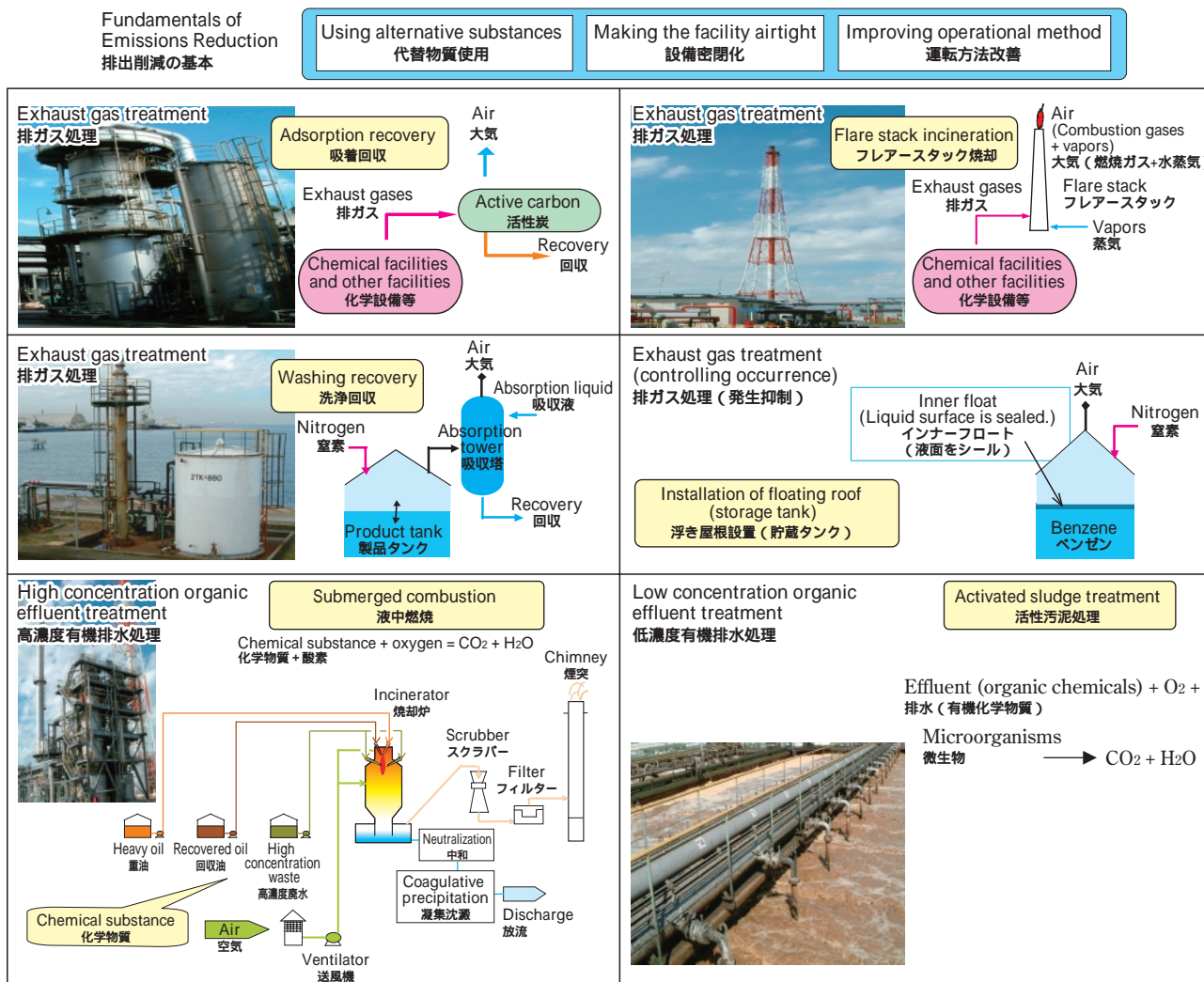


Fig. 10 Examples of Emissions Reduction Efforts
排出削減の取り組み事例

- Caprolactam Manufacturing Process Using the Gas Phase Method**
 気相法カプロラクタム製造プロセス
 The world's first manufacturing process that does not generate by-products has been developed through a combination of our proprietary gas phase Beckman rearrangement catalyst and ammonium oximation developed by EniChem (Italy).
 (Plant construction was completed and operations began in February 2003)
 自社開発した気相ベックマン転位触媒とEniChem社（伊）が開発したアンモオキシメーションを組合せることで、副生物のない世界初のプロセスを開発。
 （2003年2月～プラント完成・運転開始）
- Propylene Oxide Single Manufacturing Process**
 プロピレンオキシド単産製造プロセス
 A compact and energy-efficient manufacturing process using our proprietary catalyst has been developed. In this process, only the target product is manufactured, with no production of styrene monomer.
 (Plant construction was completed and operations began in December 2002)
 自社開発の触媒により、スチレンモノマーを併産せず、目的製品のみを生産する、コンパクトでエネルギー効率の良いプロセスを開発。
 （2002年12月～プラント完成・運転開始）
- Chlorine Manufacturing Process Using Oxidation of Hydrogen Chloride**
 塩化水素の酸化による塩素製造プロセス
 A highly efficient Hydrogen chloride oxidation process using our proprietary catalyst has been developed. In this process, hydrogen chloride, which is a by-product of the process, is recovered in the form of chlorine.
 (Plant construction was completed and operations began in January 2003)
 自社開発の触媒により、プロセスから副生する塩化水素を塩素として回収する高効率の塩素酸化プロセスを開発。
 （2003年1月～プラント完成・運転開始）



Fig. 11 Examples of Green Process Development
グリーンプロセスの開発事例

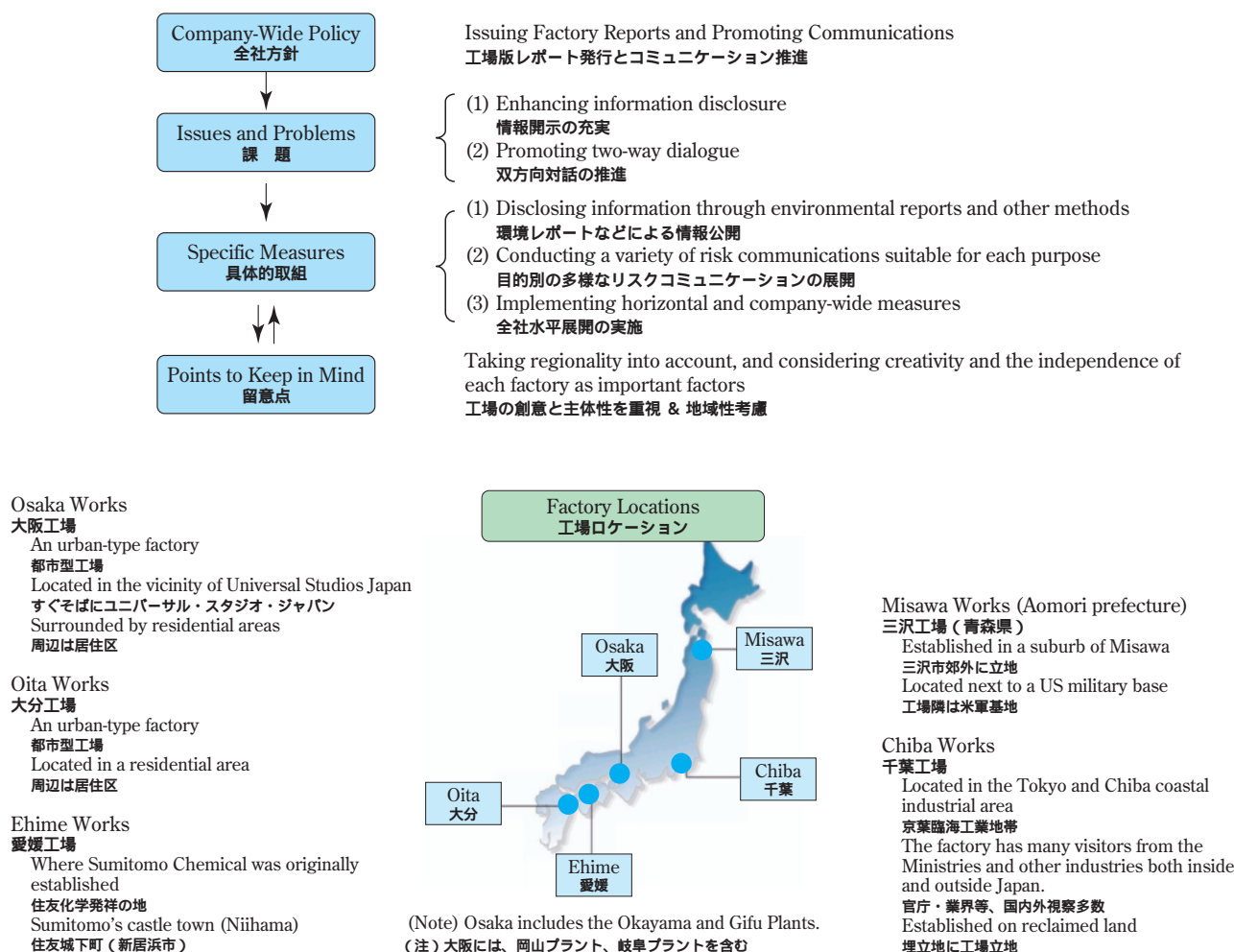


Fig. 12 Risk Communication
リスクコミュニケーション

情報開示とリスクコミュニケーションの推進

リスクベースでの適正な化学物質管理を維持・強化していくうえで、社会とのコミュニケーションの推進は欠くことができない。当社は「地域とともに発展することが企業の使命である」との事業精神に基づき、「サイトレポートの発行継続」と「コミュニケーションの推進」を全社方針に掲げ、各工場では工場自らの「創意と主体性」を重視し、かつ「地域性」にも考慮した様々な「情報開示」とユニークな「双方向対話(リスクコミュニケーション)」(Fig. 12)に取り組んでいる。

また、各工場の優れた取り組みについては、その都度、社内への水平展開を図り、全社的なレベル向上に努めている。

1. 情報開示 (Fig. 13)

当社ホームページ上で、環境・安全をはじめとした多様な情報について幅広く公開している。また毎

年「CSRレポート(全社)」および「環境・安全レポート(各工場)」を刊行し、RC活動などの詳細な報告を行っている。「環境・安全レポート」は地域の取り組みについて、全社版の内容を補完する性格を持っているが、紙面の企画・構成は工場ごとに千差万別で、それぞれ特徴的な冊子づくりを目指している。さらに攻めの情報開示の一つの手段として、新聞への折り込みによる地域広報紙の刊行をいくつかの工場で行っている。

広報紙は地域住民の方々の評判も良く、地域との親睦・信頼関係の向上に大きな役割を果たしている。また講演会やセミナーといった様々な社外での発表の場を活用して、化学物質管理やリスクコミュニケーションなどの取り組み事例についても、積極的な情報発信を心がけている。

2. リスクコミュニケーション

リスクコミュニケーションの最も大きな目的は、お互いの相互理解にある。それだけにこうした取り

Issuing the Factory-Base Environment Report

事業所版環境レポートの発行

Each factory creates its own unique booklet.

各工場で特徴ある冊子づくり

All factories issue environmental reports.
全工場で発行

Issuing Community Bulletins

地域広報紙の発行

Contributing to the improvement in trusting relationships with local residents

地域の皆様との信頼関係の向上に寄与

Community bulletins are currently issued by 3 factories - Ehime, Osaka and Oita.

愛媛、大阪、大分の3工場で発行

The community bulletin is issued a few times a year in a form of newspaper insert.
新聞折込で年数回発行

Giving lectures

講演・講義活動

Making the most of opportunities to release reports outside the company

様々な社外発表の場を活用

Theme	Attendees	Date and Place
テーマ	聴講者	年月、場所
Sumitomo Chemical's Environment Report 住友化学の環境レポート	Corporations 企業	Dec., 2006 Tokyo and Osaka 06/12、東京都・大阪市
Chemical industry's environmental measures 化学工業の環境対応	Students 学生	Dec., 2006 Sagamihara 06/12、相模原市
Sumitomo Chemical's chemical substance measures 住友化学の化学物質対応	Free フリー	Sep., 2006 Osaka 06/9、大阪市
Chiba Works' risk communication examples 千葉工場のリスクコミュニケーション事例	Free フリー	Apr., 2006 Chiba 06/4、千葉市
Ehime Works' chemical substance management 愛媛工場の化学物質管理	NPOs, local residents, government organizations NPO、地域住民、行政	Dec., 2005 Niihama 05/12、新居浜市
Corporate chemical substance measures 事業者による化学物質対策	Government organizations 行政	Dec., 2005 Tokorozawa 05/12、所沢市
Osaka Works' risk communication examples 大阪工場のリスクコミュニケーション事例	Corporations 企業	Jan., 2005 Osaka 05/1、大阪市

Examples of Released Reports Classified by Themes Such as Chemical Substance Management, Risk Communication and Environment Report
化学物質管理、リスクコミュニケーション、環境レポートなどのテーマでの発表事例Fig. 13 Information Disclosure
情報開示

組みは非常に根気がある地道なものといえるが、相互理解を深めていくことで、社会から住友化学(株)についての確かな信頼を得ることが何よりも重要なことと考える。当社のリスクコミュニケーションは、RC活動分野を対象に、様々なステークホルダーに対し、実施目的を明確にしたうえで、多様な切り口を駆使して行っている。一方で、当社製品の大半は産業向けということもあり、いまだに消費者や地域住民の方々からは「何を作っている会社かわからない。

顔が見えない。関心・興味が薄い。大気や水を汚染しているイメージがある」というような声をときどき聞くことがある。

当社は、「双方向での持続的かつ継続的な対話」「形にとられないお互いの心が通じ合う対話」の実現に向けて、今後とも試行錯誤を繰り返しながら、取り組みを着実に前進させていきたいと考えている。

特徴的なリスクコミュニケーションの実施事例を Table 4 に示した。

Table 4 Examples of Implementation of Our Unique Risk Communications
 特徴的なリスクコミュニケーションの実施事例

Objective (Intention) 目的(ねらい)	Activity 活動内容	Points to Keep in Mind 留意点
Considering environmental risks on a community basis 環境リスクを地域で考える	<ul style="list-style-type: none"> Participating in municipal risk communication model projects 自治体リスクコミュニケーションモデル事業参画 Environmental communication in Chiba (environmental dialogue meeting) (Chiba) 環境コミュニケーション in ちば(環境対話集会)(千葉) Seino district chemical substance risk communication (Gifu) 西濃地域化学物質リスクコミュニケーション(岐阜) 	Commitment to information sharing and mutual understanding 情報共有と相互理解の基本に徹する
Environmental conservation in collaboration with local communities 地域一体となった環境保全	<ul style="list-style-type: none"> A dialogue system between local residents and environmental monitors (Oita) 地域住民による環境モニターとの対話制度(大分) Requesting local universities and technical colleges to conduct research into environmental issues (Ehime) 地元大学・高専への環境問題委託研究(愛媛) 	Making most of the community power based on trusting relationships with local communities 地域との信頼関係に基づく地域パワーの活用
Supporting environmental conservation measures undertaken in overseas countries 海外の環境保全を支援	<ul style="list-style-type: none"> Supporting Korea's first area-wide total pollutant load control for water quality (Chiba) 韓国初の水質総量規制導入支援(千葉) Providing full cooperation to the Korean Environment Agency's surveys and creation of their PR DVD 韓国環境庁の調査・広報DVD作製に全面協力 Providing education regarding air pollution measures to trainees from foreign countries (Osaka) 各国研修生に大気汚染対策の教育実施(大阪) 	There are no borders in environmental conservation. (We will provide support as much as possible.) 地球環境保全に国境なし(できる支援は惜しまない)
Enhancing safety through communications with the US military base 米軍基地との交流による安全強化	<ul style="list-style-type: none"> Creating a cooperative system with the fire brigade at the Misawa US Air Base (Misawa) 三沢米軍消防隊との協力的体制構築(三沢) 	Promoting international exchange by making most of the territorial connections 地縁を活かした国際交流の勤め
Fulfilling our accountability 説明責任を果たす	<ul style="list-style-type: none"> Periodical briefing sessions regarding repairs 工場定期修理説明会 Briefing sessions regarding the construction of buildings (Conducted by each factory) 建家建設工事説明会(各工場) Briefing sessions regarding electromagnetic interference 電波障害対策説明会 ほか 	Building trusting relationships with local communities by providing thorough explanations prior to production activities 徹底した事前説明で、地域との信頼を醸成
Maintaining dialogues with local communities in collaboration with other companies 企業連携による地域との対話	<ul style="list-style-type: none"> Having local community dialogues in collaboration with the chemical industry (Chiba, Osaka, Oita) 化学産業連携による地域対話(千葉、大阪、大分) Having mini local community dialogues in collaboration with neighboring companies (Oita) 近隣企業連携でのミニ地域対話(大分) 	Having a collaborative relationship with local communities contributes to improvements in the performance of the entire community. 地域連携は地域全体のパフォーマンス向上に寄与

おわりに

2007年2月、当社は総合化学メーカーとして初めて、社団法人 環境情報科学センター主催の「PRTR大賞2006(化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰制度)」の大賞を受賞した。本賞は、PRTR制度の趣旨を理解し、率先して化学物質管理を行い、市民の理解を得るためのコミュニケーションを積極的に実践している企業・事業所を顕彰するために、同センターが創設した表彰制度で、今回が第3回目の開催となった。

当社の大賞受賞は、「全社をあげてリスクベースに基づく化学物質管理が徹底され、かつ具体的な取り組み計画の策定とその実践がなされていること、加えて各工場が主体的かつ多様なリスクコミュニケーションを積極的に推進している」ことが高く評価されたものである。当社の受賞は、言い換えれば「基本に忠実な取り組み」が広く社会に認められたことを意味するものと受けとめ、今回の受賞を契機に、今後とも科学に裏づけされた適切な化学物質管理の推進と、社会とのコミュニケーションの充実に全力をあげて取り組んでいきたいと考えている。



奈良 恒雄

Tsuneo NARA

住友化学株式会社
レスポンシブルケア室
主席部員